

神よつばの子

長岡市立神田小学校

令和5年3月23日

No. 12



「校歌に込められた思いを忘れずに」

校長 田邊 輝明

2月に行われた神田コミュニティ推進委員会の開会の挨拶で、推進委員長様が、「神田小学校の校歌は素晴らしい校歌です。人生の岐路に立った時や人生で悩んだ時に校歌を口ずさみ、勇気を与えていただいています。」という趣旨のお話をされました。

三	二	一	神田小学校 校歌
四つ葉うれしい クローバの 愛と誠実(まこと)の 旗のもと 質実の気を 校風に 学びの道に はげもうよ	姿けわしい 鋸は 清い高嶺の 風おくり 百里流れる 信濃川 気宇大なれと 教えてる	古い歴史を 新しく 灰の中から よみがえる 不死鳥の市(まち) 長岡に 名もなつかしい 神田校	作曲 堀口 大學 作詞 團 伊玖磨

神田小学校の校歌は、長岡が生んだ詩人の堀口大學先生が作詞され、團伊玖磨先生が作曲されました。堀口大學先生は、日本の文化の発展に尽くされた功績から文化勲章を受章されています。また、團伊玖磨先生は、「ぞうさん」、「おつかいありさん」など、皆さんがよく知っている童謡を数多く作曲されています。同じ市内の上組小学校の校歌もお二人がつくられたそうです。

平成元年に当時の渡邊隆校長先生が発刊した「よつばのうた～神田小学校小史～」の中に、堀口大學先生が作詞を引き受けられた訳が載っていましたので紹介します。(一部抜粋)

き受けられた訳が載っていましたので紹介します。(一部抜粋)

長岡は空襲を受けて町中が火の海になり、神田小学校も町並みも、すっかり焼け野原になってしまいました。焼け跡の整理が進むにつれて、神田小学校があった場所は市内の燃えくずなどの置き場になってしまい、学校もなくすことになって、子どもたちは新町小学校に通うことになりました。しかし、学区の人々は、「伝統ある神田小学校をなくしてはならない」と、みんなで相談して市長さんと話し合いました。そして、昭和23年に学校を建て直し、荒れ果てたグラウンドも奉仕作業できれいにしました。そして、「新しい学校にふさわしい校歌を作ろう」ということになり、何回も話し合いを重ね、堀口先生にお願いしようということになりました。

作詞を引き受けられた堀口先生は、取材のために神田小学校に訪ねて来られて、宿直当番だった動山教頭先生と夜通し話し合いました。堀口先生は、「神田小学校ができてこれまでのこと、戦災にも負けずに学校を再建したこと、グラウンドや校舎の整備に、学区のお年寄りをはじめ、地域の皆さんが自分たちの生活も省みないで努力したこと」などの話を聞き、大変感動され、「それは不死鳥だな！」と言われたそうです。それが、今の校歌の歌詞のもとになったのです。(以下、略)

24日の卒業式は、4年ぶりに全校児童で6年生ダッシュ学年26名の門出をお祝いし、全員で心を入れて校歌を歌いました。これからも、子どもたちには、「どんな困難や苦労にも負けず、たくましくやり抜いてほしい」、「広く、豊かな心をもってほしい」、「クローバーの花言葉のように、いろいろなことに愛情をもち、労わり合い、助け合う心をもってほしい」という校歌に込められた思いをずっと心に刻み、成長してほしいと願っています。

卒業生がつかないできた伝統を大切にしながら、4月から新たな気持ちで教育活動を進めて参ります。(*^-^*)1年間、当校の教育活動への御支援に感謝申し上げます。